

本講社通信の準備ができ、講元の皆様に講員募集のお願い書類とともにお送りした翌日、前古未曾有の巨大地震が東日本を襲いました。今回の大震災で亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災者の皆様には心よりお見舞いを申し上げ、なにとぞ早期に復興し、生活を再建されますよう深くお祈り申し上げます。

巨大津波によって町全体が壊滅状態となった所も多く、また原子力発電所の事故災害へと飛び火し、関東全域（と静岡・山梨県）の電力供給が阻害されて計画停電を余儀なくされ、そして放射能汚染への懸念と風評被害など、長期にわたってさまざまな影響を残すことになりました。文明の力がいかにもろいものかをまざまざと見せつけられました。個人講員の皆様には講社通信をお送りするのが遅れます



時計館宝物館の二階の窓から望むと、社殿の全体像がよく望めます。



つげられました。個人講員の皆様には講社通信をお送りするのが遅れます

ので、全く時機を失した内容となつてしまい、この部分を全面的に書き直しました。

競輪場と近江神宮

近江神宮境内造成・社殿建設と並行して造成された近江神宮外苑に、昭和二十五年に大津競輪場が設けられ、それ以来六十年にわたって県営ならびに市営（近年はすべて市営）競輪が行われてきました。特に五月末から六月初めのころに行われた高松宮杯競輪は競輪界ではステータスの高いレースでしたが、全国的な公営競技の不振とともに、高松宮（記念）杯自体は黒字であったのですが、年間通算すると赤字がかさむ状態となり、大津の競輪は本年三月をもって事業廃止となりました。高松宮杯競輪は、元来近江神宮外苑として設けられた競技場で開催することによって近江神宮の財政に寄与するためとして、高松宮殿下のお声掛かりにより始められたもので、時代の趨勢とはいえ、まことに残念なことです。競輪場の一角には今も「近江神宮外苑運動場」の門柱が残されており、今後の動向が案じられます。



保田與重郎大人没後三十年

昭和の文人・国学者として一世を風靡した保田與重郎大人が幽界に旅立たれてより本



保田與重郎大人没後三十年

年十月で満三十年になります。

保田與重郎大人は文芸評論の上とは別に、日本の文学史と道義の復興にも多く関与し、大津では特に義仲寺（木曾義仲・芭蕉とともに保田與重郎大人の墓もある）と幻住庵の復興に力を尽くされました。近江神宮には没後三年の昭和五十九年に、志賀の山越えを偲ばれた歌の歌碑が立てられ、懐旧の念ひとしおの気持ちにさせられます。

歌碑の歌

さざなみのしがの山路の春にまよひひとり眺めし花ざかりかな



ご祈祷控室入口



ご祈祷控室内部

ご祈祷控室の設置

内拝殿近くの廻廊の一角の小倉庫であったところを改造し、ご祈祷者の控室を設けました。本来の廻廊の造りに復元することも可能にするため、扉は従来の倉庫の扉のまま、中の様子が見えないため扉が閉まっていると入りにくいのが難ですが、冷暖房完備で、社殿回りの外観を窺うこともできます。初宮詣りのご祈祷者の便宜に乳児用の子安台も二台設置してあります。



齋館中庭の梅の花。寒い日が続いたせいか齋館前の梅は開花が遅く、三月十一日近江神宮敬神婦人会恒例の梅花茶会ですが、九日現在蕾がだいぶくらんできた状態です。写真は一昨年のものです。

春から初夏の祭典・行事

三月十七日	午前十一時	祈年祭
四月二十日	午前十時	例祭 勅使参向
四月二十四日	午後二時	近江まつり子供みこし渡御
五月十七日	午前十一時	崇福寺鎮魂供養祭（崇福寺跡にて）
六月九日	午前十時	献茶祭
六月十日	午前十一時	漏刻祭
六月二十六日	午前十一時	献菓献煎茶祭
六月三十日	午前十一時	日供神饌講講社大祭 饗宴祭
六月三十日	午後四時	大祓式

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。